

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0690100763		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホームおおさと		
所在地	山形市大字中野469番6		
自己評価作成日	令和 4年 11月 1日	開設年月日	平成 29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は大郷地区の静かな佇まいの中に位置し、近隣には大郷小学校やコミュニティセンター、八幡神社、逆川の土手にある桜並木等、社会資源が豊富で、大変環境に恵まれた生活拠点となっています。コロナの状況にもよりますが、子供たちとの交流や、地区の文化祭、夏祭り等、地域行事にも参加しながら、ご利用者様一人ひとりが楽しみを持って生活できるように支援しています。また、自立支援を目指した日々の役割作りにも力を入れ、家庭菜園や月行事等で、やりがいや生きがいを継続して持てるように個別ケアにも取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 12月 14日	評価結果決定日	令和 4年 12月 28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小学校を前に事業所があり利用者は登下校する子供たちを眺め、恵まれた環境の中でグループホームの特性を活かして地域福祉の拠点として利用者本位のサービスを提供しています。コロナ禍で家族等の面会もままならない状況の中で感染防止対策を徹底し、楽しく穏やかに過ごしてもらえるように様々なイベントを工夫したりその時の状況に応じた柔軟な対応と適切なケアの実施によって家族等の信頼も厚く、管理者と職員は利用者の傍に寄り添いながらより良いサービスと安心・安全な介護を目標に支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示し、基本方針、目標に合わせて部門目標を設定している。介護計画書を作る際のカンファレンス等で反映できるように取り組んでいる。職員は、年2回の人事考課面談でも評価、確認を行っている。	理念を基に利用者の立場に立った質の高いサービスの提供に努め、施設運営の透明性と地域福祉の拠点を目指した基本方針の下で管理者と職員はこれらを共有し利用者本位の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍においては、感染リスクを配慮し、直接的な交流は行っていない。施設の活動報告は二か月ごとの広報誌を回覧版に入れてもらうなどして発信している。	地域行事やイベントなど機会あるごとに交流を重ねてきたが、コロナ禍のため自粛せざるを得ない状況にあり収束するのを待っている。子どもたちの社会科学習や地域との交流など地域福祉の拠点として取り組み、買い物などにも自由に出かけられることを心待ちにして支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大郷小学校の登下校時において、室内から子供見守り隊として、子供達との交流を図っていた。今年度は地区の文化祭も再開した事から、作品作り、出展も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの助言を受けながら、書面での活動報告や意見交換を行いながら、山形市へ報告している。	コロナ禍のために事業報告や活動状況報告など書面で行い、運営推進会議に代えている。委員からは感染拡大を心配して労いの言葉や活動内容に関して評価をもらい、モチベーションも高まって質の向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主にメールや郵便を通じて、関係機関との連携を図っている。必要に応じて、電話連絡や窓口に行く事もあった。	各種申請や運営推進会議実施報告書の提出などを通して、事業所の実情や取組みを報告している。指導や助言をもらいながら法令を順守し、担当課の実直な対応により協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	独立した委員会を立ち上げ、研修等を通じながら、身体拘束の廃止に向けた勉強会を行って来ている。全職員が具体的な拘束行為を正しく理解出来ているか否かについては、事例を検証しながら周知、徹底している。	「身体拘束等の適正化のための指針」を設けて身体拘束委員会を中心に安全衛生委員会を定期的実施し、会議内容について周知を図っている。職員は研修を通して身体拘束の具体的な内容を理解し、不適切な行為にならないよう注意して利用者の主体性を尊重し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、身体拘束と同時期に勉強会の機会を設けている。入浴時には、身体にアザが無い か全身観察を行い、発見時には職員間で共有し 検証を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する利用者が居ない事もあり、制度を理解、活用するまでには至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始日に契約内容と重要事項の説明を行い、ご理解頂いてからサービス利用を開始している。また、重要事項説明書の内容に変更がある場合は、その都度、説明した上で、書面にて同意、承諾を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望・ご意見に関しては、第三者委員も含め、随時、受付しており、管理者が窓口となり解決に向けた取り組みを行っている。支援計画書の作成に当たっては、直接、ご本人、ご家族のニーズを確認しケアに反映させている。	毎月のお便り等で生活の様子を伝え、意見や要望を積極的に聴くようにしている。些細なことでも支援計画の中に盛り込んで次回の計画に繋げ、業務に関することは運営に反映できるようにしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議等の公の場面で意見を言う機会の他にも、直接、管理者や人事考課の面談で評価者へ話をする等、様々な場面で意見を言える機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課制度の中で職員の実績や頑張りを評価する機会を設けている。今期の成果を互いに確認し、次期の目標設定や資質向上に向けた話し合いを設けている。労働環境や条件についても随時対応し働きやすい職場環境に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を基に、施設内研修や外部研修、法人研修に参加している。新人、中途採用者、中堅職員、教育担当者等、職員のレベルに応じた研修を準備し人材育成に取り組んでいる。	計画的に研修を行って知識や技術を身に付けてもらい、介護力に差が生じないようにしている。職域や経験・習熟度に応じて学習の機会を設け、職員も目標を掲げて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現状として、コロナ禍においては、同業者と交流する機会ほとんどない。研修もオンラインで画面越しでのグループワークが主であるため、ネットワークを作るまでの交流には至っていない。	グループホーム連絡協議会などさまざまな機会を通じて交流を行っていたが、コロナ禍の感染拡大によりほとんどのことが自粛せざるを得ない状況にある。オンラインによる研修等で質の向上を図るように努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントの段階で、十分な聞き取りを行い、ご本人が過ごしやすい環境を整えるようにしている。要望があれば速やかに対応し、安心した生活環境の確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントの段階で、家族の希望や不安等を詳しく聞きながら、初期の段階では連絡を密に取りながら状況報告を行いながら信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境に慣れた頃、概ね3か月以内で多職種間での課題分析を行い支援方法の見直しを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を促しながら、能力に合わせて役割を持ってもらい、職員も含めた共同生活の関係性の構築に努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りでは写真を取り入れながら、生活状況が想像できるように工夫している。また、変化が見られる時には、随時、ご家族様とも相談しながら対応を検討して進めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、感染予防の観点から面会や外出はご家族も含めて控えて頂いている。ご家族にはオンラインでの面会を進めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの相性を考慮しながら、食席を決めたり、時には職員がさりげなく橋渡し役に努め、日々円滑に過ごせるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて関係機関への情報提供やご家族からの相談にも対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話からも、ご本人の意向・希望の把握に努めている。意思表示が困難な方には、ご家族に聞いたり、表情や行動の変化を職員間で共有するように努めている。	担当制をとって利用者により深く関わり、さりげない会話の中からも思いや意向を把握している。うまく表出できない場合でも丁寧に働きかけて表情やしぐさなどから思いをくみ取り支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する際、ご家族からご本人の生活歴を提出してもらいます。生まれた場所、学校、結婚の時期、生活全般がイメージできるようにお願いしています。その他、日々の会話からも思い出を引き出すように関わっています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な情報は業務日誌やケース記録、申し送りノートを活用しながら、情報共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心になり、カンファレンスを開催しながら、随時見直しを行っている。計画書の作成に当たっては、ご本人、ご家族の意見・意向を取り入れ、介護職員、看護師からも話を聞き、より具体的な支援内容になるように努めている。	日常の生活の様子と看護師による医療的な面や利用者・家族等の意向を含めて課題を分析し、より適したサービス内容について検討している。体力を維持し意欲的に日常生活を送ることが出来るように、また認知症の緩和に繋がるように実情に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの記録は、ケース記録に残し、気づきや変化等は業務日誌や申し送りノートも活用しながら職員間で共有している。内容によってはケアカンファレンスやユニット会議でも検討を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>社会資源の活用方法も様々だが、ワクチン接種を行っていない利用者が施設外に出向いて楽しむ機会はほとんどない。逆に出前等のテイクアウトを利用する機会は増えている。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、ご家族の希望を確認しながら、かかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられる環境を整えている。月2回の往診の他にも、体調不良時にはオンコールでの指示や臨時往診等、日々の健康管理に努めている。</p>	<p>入居時にほとんどの方が月2回の往診医を希望し、かかりつけ医としている。受診結果は連絡ノートや薬チェック表で二重に確認し、変化があれば家族に電話で報告している。状況によっては医師から直接家族に説明もあり細やかな健康管理を行っている。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の変化に留意しながら、異常時には看護師へ報告しながら対応している。看護師不在でもオンコール体制を取っており、必要に応じて、かかりつけ医へ連絡する等、速やかに医療へ繋いでいる。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、ご家族やかかりつけ医、医療連携室との連携を密にし、ご本人が安心して治療に専念できるような支援を整えている。退院時支援では、退院前カンファレンスを依頼する等、施設に帰ってからの注意点を確認し、職員間で共有出来るように努めている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時にも説明したうえで、要介護度3に達した時点、もしくは共同生活が困難になった時点で、ご家族との話し合いを行い、今後の方向性について一緒に確認している。その上でご本人にとって最善のサービスが受けられるよう、可能な限り提案している。</p>	<p>契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」と共に看取りは行っていないことを説明し理解を得ている。要介護認定が3になった時点でグループホームでの生活が難しくなることを伝え他施設利用などその後の方針を話し合い、希望があれば同法人の施設案内もしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行う救命講習に参加する等、初期対応の訓練を行っている。内部研修等でも、万が一の事態に対応できるように情報共有に努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての災害に合わせて、年間で訓練を実施している。水害に関しては、小学校や近隣の施設と協議を重ね、避難場所の確保や協力体制の確認に努めている。	総合訓練を消防署立ち合いの下実施し、講習を受け火事ぶれの重要性や利用者の行動への対応など、反省点を次回に活かしている。夜間駆付けや緊急連絡、地震や水害を想定した訓練も行い、小学校を水害時の避難場所としており消防団に協力依頼をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの尊厳、人格の尊重は勿論の事、何より人生の先輩であることを忘れずに、温かみのある言葉使いを意識して取り組んでいる。	接遇研修で言葉遣いなどを学び、利用者を尊敬し親しみのある対応を心掛けている。畑仕事や食事の盛り付け・後片づけなど進んで手伝ってくれる方もおり、一人ひとりが役割を担い誇りをもって暮らせるよう取り組んでいる。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中から、希望、要望等を吸い上げ、自己選択、自己決定ができる様に心掛けている。困難な方については、ご家族へ相談するなどして、ご本人様が望む生活に近づけるように支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に合わせた生活ではなく、その日の体調や気分を伺いながら、寄り添った生活が送れるように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが出るように、意向を伺いながら決めている。ご自身で決められない方は、ご家族へ相談しながら、好みそうな衣類を準備して頂く等、配慮した対応を心掛けている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わせて個人購入をしたり、家庭菜園で採れた野菜を使って、一品追加した食事を皆さんで召し上がっている。	配食サービスを利用してごはん汁物は職員が調理し、畑で採れた野菜で一品プラスすることもあり喜ばれている。またピザや寿司・仕出し料理などの出前や調理活動・行事食などは喜んで完食し、楽しみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立やカロリー計算は委託業者の栄養士が考えて立てている。食事量や水分量は当日の職員が把握し記録に残している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの他に、毎週、歯科往診があり、歯科衛生士から口腔内をチェックしてもらい、必要時には医師の治療を受けている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を促し、夜間もPTイレを使用する等、最後まで排泄機能を残した取り組みを行っている。必要に応じては二人介助でもトイレでの排泄を促している。	自立排泄の方が多く、一人ひとりのパターンや昼・夜など状態に合わせて排泄用品を利用し、日中は全利用者がトイレで排泄できるように支援している。失敗時は他の利用者にはわからないように居室で着替えるなど、自尊心を傷つけないようにしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給、乳製品等、食品による自然排便を促し、便秘症の方には、かかりつけ医とも連携しながら、下剤による排便コントロールも行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、個人の好き嫌いや回数の問題もあり、現在のところ自由に入浴できる体制にはなっていない。当日の朝に声掛けをして、順番等を確認しながら回数に差が出ないように進めている。	週2回を目安に安全に配慮しながら湯船につきりゆっくり温まってもらい、さりげなく全身を観察している。希望により同性介助も行い、拒否する方には無理強いせず、入浴にも個人差があり工夫して対応している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を設けることなく、本人のペースで就寝して頂いている。人によっては午睡を設けたり、居室もご本人が安心して休めるように、家族写真を置いたり、使い慣れた家具を持ち込んだりと工夫している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の飲み忘れが無いように複数の職員確実に服用して頂くように支援している。ご利用者様が薬の内容や副作用を理解するまでの説明は行っていない。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力、意欲に応じて役割を持って頂いている。生活に張りや喜びを感じて頂けるように、一人ひとりの楽しみや趣味、希望を考慮しながらやりがいに繋がるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、日常的とはいかないが、安全対策を取りながら、天気の良い日や少人数で施設周辺の散歩や車から降りないドライブ等、気分転換を図っている。	花見などのドライブに出かけ車窓からの風景を眺め、人出がないときには車から降りて外気に触れるなど感染対策をした上で楽しんでいる。天気の良い日には事業所周りで散歩や日光浴をしたり、畑の世話や収穫などで本領発揮し生き生きとした姿が見られている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では現金を使用する機会が無く、通帳はご家族、生活費の一部を施設で管理させて頂いている。以前は一緒に買い物もできたが、今は要望を聞いて代理で購入させてもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や受話器での受け答えができる方は、家族との会話を楽しむ機会がある。聞き取りが出来ずに利用できない方も多い。毎月のお便りの中で一言二言書いてもらったり、年賀状を出したりしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂けるように飾り付けを工夫したり、洋間の他にも畳のスペースを準備して、気分によってリラックスできるように生活空間を整えている。また、快適に過ごせるように空調管理にも配慮し、温度、湿度も季節に応じて調整している。	ほとんどの利用者が1日の大半をリビングで過ごし、ゲームや習字・フラワーアレンジメントなどを楽しみ、双六形式で目標を目指す歩行訓練や室内運動会では互いに競い合い生活の張り合いとなっている。利用者同士の関係にも気を配り居心地良く暮らせるようにしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは座席を決める事で、ご本人も自分の場所として安心に繋がっている。相性の良し悪しを慎重に検討し、ソファでくつろいだり、テーブルを増やす等、楽しく過ごして頂けるように工夫しながら対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的に居室内のレイアウトは自由に行って頂き、ご自宅で使われた家具や小物を持ち込む事で、ご本人が過ごしやすいように一緒に配置して頂</p>	<p>広く明るい居室にはベッドとクローゼットが備えてあり、使い慣れた家具などを自由に持ち込み思いおもいに設えている。家族写真や賞状などを飾り、その方だけの落ち着ける空間となっている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレ、テーブル等には目印になるものを付いたり、必要な方には名前を大きく貼る事で不安を減らし、ご本人が出来る事を増やせるように支援している。</p>	/	/	